

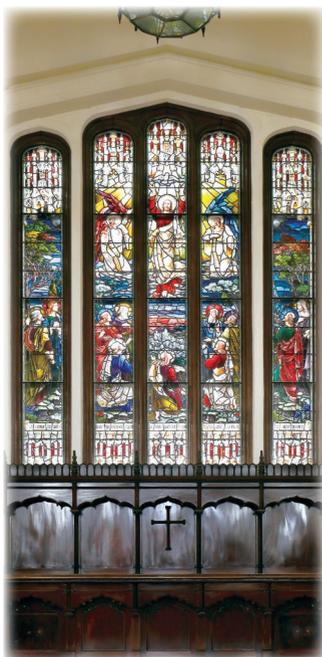
# 水曜通信24

東北学院宗教センター編

2023年  
1月

## 第59回 水曜公開礼拝

2023年 1月18日(水) 18:30 - 19:00



説教：大西 晴樹（院長・学長・宗教センター所長）  
奏楽：渡辺 真理（礼拝オルガニスト）

### <礼拝次第>

前 奏：J.P.スヴェーリンク作曲  
天にまします我らの神よ

賛美歌：452番

聖 書：マルコによる福音書 4章30-32節

讃美歌：234A番

説 教：「シュネーダー先生とその弟子たち」

頌 栄：542番

後 奏：J.P.スヴェーリンク作曲  
いと高き神にみ栄えあれ

後奏の後、渡辺 真理（礼拝オルガニスト）のオルガン演奏による賛美を行います。

次回第60回水曜公開礼拝は2023年2月15日です。

## 第58回 水曜公開礼拝報告（説教：松本 宣郎、奏楽：菅原 淑子）

2022年12月21日（水） 18：30－19：00

讃美歌：94番「ひさしくまちにし」  
聖書：ヨハネによる福音書 3章 16節  
讃美歌：98番「あめにはさかえ」  
説教：「神はその独り子をお与えになったほどに」  
頌栄：539番「あめつちこそぞりて」



### 【説教要旨】

以前話題になった「親ガチャ」という言葉は、今の自分が惨めで幸せになれそうもない、親がよくないのだから仕方がない、という虚無感を表している。人はどうして生まれ、最後はどうなるのか、死ぬだけなのか。神はそのように滅びに向かうしかない人間のためにこそ、その独り子を遣わされたのである。その独り子を私たちは十字架につけて殺したが、そのことを神は御承知の上で独り子を遣わされた。それほどに神の私たちへの愛は大きなものだった。「創世記」にあるように人は神の息を吹き入れられて命ある者になった。その神に背いた私たちを命へと引き戻し、私たちがどこから来、どこへ行くのか知らせるために独り子が遣わされたのだ。その独り子イエス・キリストの誕生を喜び、神を讃美したいと思う。

（前理事長・院長 松本 宣郎）

前奏：J.S.バッハ作曲『いざ来ませ、異邦人の救い主よ』 BWV659

ライブツイヒ時代に成立したバッハ晩年の傑作「18のコラール」の中の1曲で、ソプラノの旋律が豊かに装飾され、待降節の最も美しいコラールとして知られています。

後奏：J.S.バッハ作曲『いざ来ませ、異邦人の救い主よ』 BWV661

同コラール集の中の同タイトルの3曲目で、技巧的な手鍵盤に対し、定旋律がペダルで力強く奏されます。



（礼拝オルガニスト 菅原 淑子）

礼拝とその後19時00分から30分までの菅原淑子氏によるオルガンによる賛美に48名の方が参加されました。

## 礼拝後、音楽による賛美（オルガン独奏：菅原 淑子）

### 1. Nicolaus Bruhns (1665～1697) 作曲『いざ来ませ、異邦人の救い主よ』

ブルーンスは、弦楽器を父に、オルガンと作曲を北ドイツの巨匠バクステフーデに学び、ヴァイオリンとオルガンの名手とも言われていました。6曲のオルガン作品と、12曲のカンタータを残しており、コペンハーゲンの宮廷作曲家、ヴァイオリン奏者を経て、北フリースラントの都市、フーズム大聖堂のオルガニスト、カントルとして、31歳と言う若さでこの世を去るまで活動しました。

ブルーンスの作風は、ホモフォニックな部分とポリフォニーの部分の対比、技巧的なペダルの走句など、典型的な「北ドイツ・オルガン楽派」の特徴を有しており、この作品では、待降節のテーマが見事に変奏されています。



### 2. Marcel Dupré (1886～1971) 作曲「神の御子は今宵しも」による変奏曲

パリ音楽院院長、パリの聖シュルピス教会のオルガニストを努めたデュプレは、多くの優れたオルガニストを輩出し、華麗なる一大楽派を築きました。ヴィルティオーゾ、即興の王者としても名を馳せていました。

この曲は、降誕節の有名な讃美歌「神の御子は今宵しも」の、デュプレによる即興作品です。

（菅原 淑子）

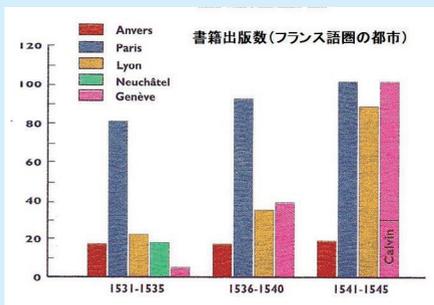
## 宗教改革者カルヴァン（4）「亡命フランス人の基金」（寄付の精神）

16世紀、スイス・ジュネーブで始まった幾つかの社会的な改革について紹介していますが、今回は、「貧しいフランス人亡命者のための基金（Bourse des pauvres étrangers français）」です。これは寄付金を集めて、フランスからジュネーブに流入してきた亡命者たちに食料や生活の支援をする目的で設立された基金のことです。なおドイツ基金などもありましたがフランス人の基金は規模が桁違いでした。

ジュネーブという町は1537年にカルヴァンがフランスから到着した時には人口が10,300人でしたが、1560年にはフランスを始めとして各地から亡命者が流入して2万人以上に膨れ上がりました。小さな町で人口が倍増すれば様々な課題を生じますが、とにかく亡命者たちの生活を支える必要が生じました。

そこでフランス人のカルヴァンを始め大勢の人々がこの基金に寄付をしました。1550年以後の帳簿が現存していますが、基金を運営する6人の委員たちの選挙はカルヴァン宅で行われたことも判明しています。この基金は相当な額の寄付を得て、困窮者の支援だけでなく聖書を始め大量の書籍の購入と配布も行ったのです。ジュネーブの町は一時印刷の町としても知られ、発行部数はパリを凌ぐほどでした。

（宗教センターチャプレン 野村 信）



<Une statistique publiée par le Musée de Calvin, 2000>

## 「地の塩、世の光」として生きた東北学院の卒業生

12月3日（土）、押川記念ホールにて、東北学院史資料センター主催、（社）宮城県聴覚障害者協会共催により、「日本のろう教育における東北学院同窓生のはたらき～高橋潔・大曾根源助を中心に～」と題する講演会と、上記の高橋潔を主人公として制作された映画「ヒゲの校長」が東北地方で初上映された。

東北学院の同窓生である高橋潔と大曾根源助の二人は昭和初期の日本のろう教育に多大な貢献を果たした。その貢献とは、聴覚障害者にも口で話をさせるべきであるという論調と共に、「手まね」（当時の手話の呼び方）を廃止すべきという論調が相まって高まる中、必死で「手まね」の重要性を訴え、手話を守ったのが高橋であり、固有名詞などを表現するのに役立つ指文字を作り、日本に浸透させたのが大曾根だった。しかし、本学の同窓生である彼らの「地味」とも言える業績はほとんど知られてこなかった。これまで世間の脚光が当たらなかった彼らの地味な事業はまさに「地の塩、世の光」そのものだったことが、今回の講演会とおして確認することができた。

今日では、誰もが知る手話。内閣総理大臣による国民に対する重要な発表の際には必ず手話通訳者とその傍らに立つ。これからは手話を目にする度にきっと高橋潔の功績を思い起こすだろう。

（宗教センター主任 原田 浩司）

2022年度 公開学術講演会

「日本のろう教育における東北学院同窓生のはたらき～高橋潔・大曾根源助を中心に～」

「ヒゲの校長」上映会

12/3日 12:30～17:00

東北学院史資料センター

東北学院史資料センター  
archive@mail.tohoku-gakuin.ac.jp

手話通訳あり・文字情報毎冊あり

12/4日 13:00～17:00

東北学院史資料センター

「ヒゲの校長」上映会

12/4日 13:00～17:00

東北学院史資料センター

## 美術による賛美 (18) 風景画と静物画

西洋中世は神中心の世界でした。価値あるのは神だけで、現実は過ぎゆくもので無価値でした。アメリカの哲学者スーザン・ソントグ (1933-2004) が写真論で分析するように、写真に撮る、また絵に描くのは、価値あるものだけです。つまり中世では神さまと聖書物語だけが描く価値があり、虚しい現実を描かれませんでした。しかし近世になると現実が描かれるようになります。その根拠は愛肉による現実の神化・聖化でした。そして聖書物語の中の風景が独立します。それが風景画の成立です。左は現実の風景が描かれた最初の例、コンラート・ヴィッツ (1410-45) の『奇跡の漁り』で、ジュネーブのレマン湖からモンブランが見えます。独立した現実の風景の最初の作例はレオナルド・ダ・ヴィンチが日付も記して描いた故郷ヴィンチ村の風景でした。



コンラート・ヴィッツ『ペテロ祭壇画』1444年  
132×151cm、ジュネーブ美術歴史博物館



ジュネーブ市内からのモンブラン  
2022年9月6日撮影



2022年9月6日撮影



レオナルド・ダ・ヴィンチ  
『1473年8月5日の風景画』  
フィレンツェ、ウフィツィ美術館

静物画も同じです。静物画も聖書物語を描く細部から独立します。最初の作例は、カラヴァッジオの『果物籠』です。これも同じカラヴァッジオが聖書物語を描いた『エマオの晩餐』のテーブルの上にあった籠が独立したものです。実際の絵を並べてみると、籠の大きさは、ほぼ同じです。また籠がテーブルから手前に少しはみ出て、影が描かれているところも同じです。しかも林檎には虫がつき、葉っぱは萎れかけています。いずれは虚しくなるのです。これをヴァニタス<虚しさ>



カラヴァッジオ『エマオの晩餐』1596-1601年  
141×175cm ロンドン、ナショナル・ギャラリー



左の細部



カラヴァッジオ『果物籠』  
1596-99年 31×47cm  
ミラノ、ブレラ美術館  
(理事長特別補佐<宗教センター担当>鐸木道剛)

図像と言います。恩寵はその虚しい現実を肯定します。神が虚しくなってくださったからです (フィリピ 2: 6-7)。

しかしトレルチ (1865-1923) が書くように、近世のこの現実肯定は、最も峻厳なる罪観念と確信不動の来世観とに深く根ざしているのであって (『ルネサンスと宗教改革』岩波文庫、40頁)、旧約による被造物の虚しさは決して忘れてはなりません。旧約は新約以降でも「一点一画も消え失せることはない」(マタイ 5: 18) のです。



いのち

ひかり

あい

東北学院スクールモットー  
LIFE LIGHT LOVE (いのち・ひかり・あい)

東北学院宗教センター編「水曜通信」  
第24号

2023年11月11日発行

〒980-8511 仙台市青葉区土樋 1-3-1  
発行責任者: 宗教センター主任 原田 浩司  
東北学院宗教センター TEL: 022-264-6558  
Email: c.center@mail.tohoku-gakuin.ac.jp